

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
41 バス路線維持対策事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	1	コンパクトシティの実現
施策	2	公共交通体系の充実
取組方針	3	公共交通機関の維持・充実

事業種別	継続	
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	交通政策課	堀内 達也 (435-1016)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		総務費	
	項		総務管理費	
	目		交通政策費	
	大事項		交通政策事業	
事項		バス路線維持対策事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	地域住民の生活交通手段として重要なバス路線の維持を図る。	バス事業者だけで維持することが困難となったバス路線 (広域的・幹線的路線、市内完結路線) に対する補助や、交通不便地域における地域が主体となった地域バスの導入に対する支援を行うとともに、利用促進に向けた啓発を実施する。また、デマンド型乗合タクシーの導入に向けた検討を行う。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		生活交通路線の維持 (深山線、岡崎線) 地域バス (紀三井寺団地線) への支援 地域バス導入検討 利用啓発	生活交通路線の維持 (深山線、岡崎線) 地域バス (紀三井寺団地線) への支援 地域バス導入検討 利用啓発	生活交通路線の維持 (坂田線、岡崎線) 地域バス (紀三井寺団地線) への支援 地域バス導入検討 利用啓発	生活交通路線の維持 (坂田線、岡崎線) 地域バス (紀三井寺団地線) への支援 地域バス導入検討 デマンド型乗合タクシー導入検討 利用啓発	生活交通路線の維持 (坂田線、岡崎線) 地域バス (紀三井寺団地線) への支援 地域バス導入検討 デマンド型乗合タクシー導入検討 利用啓発

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	25,623	23,060	26,776	21,796	24,160	21,415	21,062	21,062	21,062	-
伸び率 (%)	-	-	4.5%	▲5.5%	▲9.8%	▲1.7%	▲12.8%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	7,919	10,103	10,103	10,543	8,147	8,364	10,903	10,903	526
	正規職員以外	101	94	94	105	313	316	526	526	526
	小計	8,020	10,197	10,197	10,648	8,460	8,680	11,429	11,429	11,429
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	25,623	23,060	26,776	21,796	24,160	21,415	21,062	21,062	21,062	
所要人数 (人)	正規職員	1.04	1.36	1.36	1.39	1.07	1.05	1.37	1.37	0.24
	正規職員以外	0.05	0.05	0.05	0.05	0.14	0.14	0.24	0.24	0.24
主な予算内訳	補助金19,520千円、委託料1,396千円 等									

3 目標及び実績

指標	指標名	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
				目標値	実績値	達成度 (%)	目標値	実績値
活動指標	補助対象路線数	路線	目標値	3	3	3	3	3
			実績値	3	3	3		
			達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%		
活動指標	利用啓発回数	回	目標値	7	7	7	7	7
			実績値	7	7	7		
			達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%		
成果指標	全体路線数 (和歌山バス+和歌山バス那賀+地域バス)	路線	目標値	23	23	23	23	23
			実績値	23	23	23		
			達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%		
成果指標	年間輸送人員 (和歌山バス+和歌山バス那賀+地域バス)	人	目標値	8,407,830	8,424,771	8,441,327	8,458,076	8,474,824
			実績値	8,485,502	8,629,844	8,554,768		
			達成度 (%)	100.9%	102.4%	101.4%		

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>車社会化や人口減少などから、近年、地方都市では廃止（廃止対象）となるバス路線が増加しているが、バス路線は、市民の移動手段として、非常に重要なものであり、特に車を持たない学生や高齢者等にとってはなくてはならない移動手段であり、その確保が喫緊の課題となっている。そのような中、維持困難な路線への補助、地域が主体となる地域バスの運行導入に対する支援を行うことで、移動手段の確保が図れる。</p>
見直し・改善内容	<p>現在、赤字バス路線の維持や地域バス導入に対する支援、また利用啓発等を行っているが、近年、廃止や減便となるバス路線が増加傾向にあり、今後は住民ニーズの把握に努めるとともにバス事業者と協議を行い、バス路線の見直しや再編を図っていく必要がある。</p>